

31E22-am12

一般市民と医師との間の医療分野における薬のリスク等の認知の乖離に関する研究 2

○吉田 佳督¹, 吉田 康子², 元吉 忠寛³, 齋藤 充生⁴, 早瀬 隆司⁵(¹名古屋大医,
²名古屋市大薬, ³関西大社会安全, ⁴帝京平成大薬, ⁵長崎大院水産・環境科学)

【目的】

食品安全や環境保全分野で広く行われているフォーラム形式のリスクコミュニケーション(以下、リスコミ)を、医療分野にも応用すべく、その効果的なあり方の検討に資する観点から、医療現場における「情報の格差」や「認識の差異」の実態の解明を行うことを目的とした。

【方法】

インターネット調査として実施した。調査に先立って名古屋大学大学院医学系研究科の倫理委員会の承認を受けた。調査用語は、薬のリスク等の認知に関する一般市民と医師との間の乖離に関する研究を行う上で、先行調査である国立国語研究所の実施した 58 用語に、新たに 32 用語を加え 90 の医療用語を検討した。

【結果】

一般市民については、男性 142 名、女性 173 名の計 315 名から回答を得た。医師については、男性が 194 名、女性が 17 名の計 211 名から回答を得た。一般市民の認知と医師から見た認知の間のかい離に関して、全体では 90 の医療用語中 73.3 %に当たる 66 の医療用語について、統計的有意差が見出された。また、一般市民の認知の値と医師による言換えの値との間には、90 の医療用語中 75.6 %に当たる 68 の医療用語について統計的有意差が見出された。

【考察】

本研究の結果から、医療用語については、医師が思っているよりも、患者は認知をしていないということに留意し、医師等の医療従事者が患者とのリスコミを図る際には、より平易な言葉で説明することに心がけるべきであると言える。